

氏名： 坂本 佳鶴恵 (SAKAMOTO Kazue)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
学位： 社会学修士 (1984 東京大学)  
職名： 教授  
専門分野： 社会学、特に社会意識・文化論および家族・女性に関する研究  
E-mail： sakamoto.kazue@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

コミュニケーション／社会意識／メディア／家族・ジェンダー

#### ◆主要業績

総数 (5) 件

- ・「ファッションの社会的機能とメディアの役割——大学生調査の計量的分析から」『人文科学研究』第4巻 p.139-149
- ・『社会学のエッセンス (新版)』(友枝敏雄、竹沢尚一郎、正村俊之、坂本佳鶴恵著) 有斐閣 p.298
- ・「スティグマ分析」北澤毅編著『リーディングス・日本の教育と社会9 非行・少年犯罪』日本図書センター p.110-128
- ・“From Identity Theory to Identification Theory: A Critical Reading of Erikson, Althusser and Butler” COE 英文モノグラフ
- ・『日本女性史大辞典』吉川弘文館 (ホームドラマ、岸辺のアルバム、三益愛子、君の名は、金曜日の妻たちへ、久松貴世子)

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

1. 構築主義について、広義の構築主義のアプローチから社会問題の構築主義までの理論をまとめ、紹介する論文を執筆、出版した。
2. 以前おこなった大学生調査を、ファッションの社会的機能というテーマで、再分析をおこない、階層、下位集団文化、アイデンティティ、ジェンダーとの関連を、実証的に明らかにし、論文とした。
3. アイデンティティと権力との関係について、これまでの考察を吟味しつつ、英語論文にした。
4. 家族とホームドラマ研究の関係で依頼のあった、ホームドラマや母もの関連の諸項目を調査し、辞書の一部として執筆した。
5. 女性雑誌、ファッション、ジェンダーの関係について論文を執筆し、投稿した。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部のゼミでは、各自のテーマ発表と、前期は身近な社会事象の分析、後期は質的社会調査分析および言説研究を学ぶことを目的とした。E. ホックシールド『セカンド・シフト』、ケン・プラマー『セクシュアル・ストーリーの時代』を読み、議論をおこなった。現代生活論では、社会階層と少子化の問題を中心に、現代日本における格差社会をめぐる議論を紹介、議論した。NPOインターンシップでは、全体の運営、広告・宣伝のNPO団体への学生派遣を担当した。

大学院では、各自のテーマ発表のほか、院生と話し合っって個別に決めたテキスト（グランデッド・セオリー・アプローチなど）を議論した。

このほか、卒論の個人指導・共同指導、修士論文個人指導・共同指導、博士論文審査を担当した。この年は、15本の卒業論文審査、5本の修士論文審査（うち3本が実質主査）をしたほか、博士論文では、副指導として審査を2本担当し、主指導として、2本の論文の指導・審査をおこなった。

## ◆研究計画

1. ファッションなど外見と格差についての社会調査をおこない、その結果を報告書にまとめる。
2. メディアと文化現象の分析をめぐる諸理論について、そのアプローチ、利点と問題、自分の立場をまとめる。
3. 女性雑誌の研究について、成果をまとめる。

## ◆メッセージ

現代社会では、さまざまな情報が氾濫しています。いかに情報を集め、その良否を確かめ、自分で考え、自分の言葉で語っていくか。私の授業が、そうしたことを、学んでいける場になればと思っています。